令和５年度　奈良県立大和中央高等学校　通信制課程　学校評価総括表

年度	令和５年度（中期計画２年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	・生徒の学習ニーズやライフスタイル等に応じた学習機会の提供　　・生徒の「学び直し」や不登校生徒等に対する支援
年度重点目標	(1) 自立した社会人となるための基礎形成を図る。　(2) 生徒理解による基礎学力の定着に努める。 (3) 好ましい人間関係構築能力や社会性を育む。　(4) 生徒の安全を守る取組を充実させる。 (5) 「命」を大切にする行動ができるよう、指導の浸透を図る。　(6) 働き方改革の推進を行う。

１　スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	本校通信制課程では、以下のような生徒を募集し、入学者選抜を経て受け入れます。 １　「高校を卒業したい」という強い意志を持ち、真剣に学校生活を送ることができる生徒を募集します。　２　通信制で学ぶ基本となる「時間の管理」ができる生徒を募集します。 ３　卒業後の進路目標や目的意識を明確に持ち、「自学自習」ができる生徒を募集します。　４　自己を高め、個性を大切にし、一人ひとりの違いを認められる生徒を募集します。 ５　何事にも、こつこつと粘り強く取り組むことができる生徒を募集します。　６　基礎学力が身に付いており、さらに学力を伸ばそうとする意欲ある生徒を募集します。
	教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	本校通信制課程では、「自律」「敬愛」「進取」の校訓のもと、以下のような教育活動を行います。 １　自学自習がスムーズに行えるように、スクーリング（面接指導）で、学習の方法を丁寧に指導します。 ２　学校設定科目「数学入門」、「英語入門」では、基礎学力の定着を図ります。 ３　総合的な探究の時間「つどい」では、学習意欲、自尊感情、勤労観、自己表現力等の向上を図ります。 ４　日曜コースと平日コースを設け、自分のライフスタイルに応じた学びを設定できます。また、３年間での卒業も可能です。 ５　個別の「自学自習」を支援するために、毎週1回、生徒相談日を設けています。 ６　自学自習に適したレポートを作成し、丁寧な添削指導を行います。 ７　「生徒交流会」や「夏の風物詩」などの学校行事を、特別活動として認定しています。 ８　郷土を愛する心を育むことを目的とした、「生活文化の伝承」や「奈良ＴＩＭＥ」では、探究心を高めると共に地域と密接に連携した教育活動を行います。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	本校通信制課程では、以下の資質・能力を身に付け、７４単位以上の単位を修得した生徒に卒業を認定します。 １　社会的自立に必要となる生きる力、基礎的な学力、勤労観を育成します。　２　自尊感情を高め、互いの人権を尊重し、命を大切にする心と行動力を育成します。 ３　意欲的に学びに向かう力と、粘り強く目標に向かって努力する態度を育成します。　４　自ら考え判断し、計画的に行動できる力や自己管理力を育成します。

２　奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（Ａ）	計画期間における具体的目標（Ｂ）	令和５年度末の目標値等（Ｃ）	令和５年度末の状況（Ｄ）	自己評価（Ｅ）	学校関係者評価（Ｆ）	改善方策（案）
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	生徒と教員の望ましい人間関係の構築	・生徒または保護者との面談、教育相談を充実させ、生徒の状況把握に努める。	生徒または保護者との面談等を年に２回以上実施	生徒または保護者との面談等を年に複数回実施してきたが、連絡がとれない保護者・生徒も少なからずいる。	登校の機会が少ない本校の実情を踏まえ、学習が滞っている生徒・保護者に対し、随時面談や電話連絡等を行ってきた。一方で、連絡がとれなくなる家庭に対するアプローチが課題となっている。	生徒の実態を把握し、必要であれば外部の関係機関とも連携しながら、生徒の対応にあたっていくことが重要であると考える。	教育相談日の利用について、年間行事計画、受講ガイドブック、ホームページ等で生徒及び保護者に呼びかける。また、学習が滞っている生徒を対象に、随時、面談、教育相談等を実施する。
	食育の推進	・「すこやか通信」を配布し、生徒の意識向上を図る。	「すこやか通信」を年２回発行	「すこやか通信」は元養護教諭であるスクールヘルスリーダーに作成いただき、９月と１月に配布した。	「すこやか通信」の配布及び教室等への掲示にとどまり、生徒に直接指導する機会がなかった。		食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、ホームルームの他、関連する教科で指導を行う。
	不登校等の様々な問題を抱える生徒への支援	・保護者、ＳＣ、ＳＳＷ等との連携を強化し、教員間で情報を共有しながら、適切な指導方法を模索する。	職員研修を年に１回以上実施	６月に職員研修を実施した。また、毎月の職員会議でも生徒に関する情報共有を行ってきた。	生徒の情報については常に教員間で共有するよう心がけてきた。この体制は維持していきたい。		ＳＣ、ＳＳＷの協力を得ながら、定期的に生徒等に関する情報共有を行い、生徒及び保護者の支援を継続する。
２．学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けたスクーリング	・週１回のスクーリングの指導内容を充実させる。	規定回数出席する生徒数の増加	規定回数出席した生徒の割合 70.1%（昨年度78.9%） 「スクーリングは学習内容の理解に役立っている」の肯定的回答　92.3%（昨年度94.6%）	スクーリングの満足度は維持しているが、「面接指導」としてのあるべき姿については検討を要する。また、学習が滞っている生徒の指導が課題となっている。	ＩＣＴの活用が進んでいるが、使うことが目的ではなく、適切に活用することが必要である。キーボードで入力することが増え、実際に字を書く機会が減ってしまっては、生徒が社会に出たときに困ることもあると思う。	他の教員のスクーリングの観察を行う。また、メディアの活用等、生徒がより主体的に参加できるスクーリングの方法、自学自習の支援のあり方について検討する。
	学習意欲の向上	・自学自習の方法を理解させ、生徒の気持ちを学習に向けさせるように努める。 ・各科目の単位修得率を前年度より高めることができるよう、生徒へ丁寧に説明・指導する。 ・生徒のレポート作成の支援のあり方について研究する。	意欲的に自宅で自学自習に取り組むことができるレポート作成 全ての教科でクラスルームにより生徒と情報を共有	各クラス及び各科目でクラスルームを作成し、生徒への連絡、質問の受付等を行った。 集中質問期間を新たに設定し、前期のべ117名、後期のべ133名の生徒が参加した。	今年度導入した集中質問期間には多くの生徒が参加し、レポートの提出率向上につながった。学習の進捗状況について、自己管理ができていない生徒への支援が課題となっている。		来年度開講する新課程科目のレポート作成について、近畿の各通信制高校の取組を参考にしながら進める。また、学習内容の理解度向上に向けたＮＨＫ高校講座等のメディアの活用について研究を進める。
	ＩＣＴ教育の推進	・ＩＣＴを活用した指導方法の研究に努める。	スクーリングにおける電子黒板及びChromebookの活用に関する研修会の実施	電子黒板の活用、Webコンテンツの利用について、短時間での研修、情報交換を定期的に行ってきた。	電子黒板を用いた教材提示等、生徒にとってわかりやすいスクーリングを展開できた。		Classroomの活用率を上げる。また、ＮＨＫ高校講座をはじめとするメディアの利用等、コンテンツの充実に努める。
	働き方改革の推進	・業務の適正化、効率化等を図り、働き方改革を推進する。	業務の改善、効率化について、年に２回話し合う場を設定	働き方改革について、３回話し合う場を持ち、学校閉庁日を３日、毎週の定時退庁日を設定することができた。	職員室の整理・整頓等についても、日頃から意識的に取り組むことで、効率的に業務を遂行することができている。		スプレッドシート等によるデータの共有、ペーパーレス化等、業務の見直しを進める。
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	社会的自立に向けて、職業観の育成	・定時制や高進協、労働局との連絡を密にし、進路に関する情報を入手し、生徒に情報提供を行う。	就職希望生徒の80%以上に対する職場見学等を実施	生徒の状態を考慮し、丁寧に進路指導を行っている。就職希望生徒の職場見学は100%実施できた。	今年度は２社以上見学した生徒も複数名いた。生徒の実態、希望に柔軟に対応している。	変化の激しい世の中であるからこそ、今の生徒に必要な力をしっかりと身につけられるよう指導していく必要があると考える。	ミスマッチを減らし、個々のニーズに対応できるよう、引き続き、生徒の進路希望を丁寧に聞きながら、随時指導を進める。
	産業界との連携の推進	・外部講師を招き、進路講演会等を実施する。	進路講演会等を年に複数回実施	６月に分野別説明会を２回、10月に進路ガイダンスを２回実施した。	クラスを問わず、卒業対象となる生徒がいることから全生徒が参加できる方法で実施することができた。		生徒に自信を持たせることができるような内容となるよう、人選や方法について検討する。
	キャリア教育の推進	・総合学習「つどい②」において、自己を見つめ、自立した社会人になるための生き方や将来について考えさせる。	授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答80%以上	「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答　92.3%（昨年度94.0%）	スクーリングやレポートを通した学習にとどまっている。生徒がより能動的に学習に取り組む工夫が必要である。		生徒が進路実現に向けて意欲を高めることができるよう、「卒業生の話を聞く会」の実施等について検討する。
４．地域と協働して活躍する人を育てる	コミニュティ・スクールの運営	・委員等との連携を密にしながら諸活動や行事への協力体制をとれるようにする。	学校運営協議会を年に複数回開催	第１回を７月に、第２回を12月に実施した。	学校運営協議会委員の方に、学校設定科目の外部講師、「順慶まつり」への参加等で協力いただけた。	「順慶まつり」では生徒の自己肯定感、自己有用感を高めることにも役立っていると考える。地域とともに「順慶まつり」を育ててきた経緯がある。閉課程後のことも見据え、今後の連携のあり方について検討をお願いする。	「順慶まつり」だけでなく、生徒が活躍できる場を提供いただけるよう、地域との協働をより一層進める。
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	・「奈良ＴＩＭＥ」「生活文化の伝承」の指導内容の充実を図る。	「奈良ＴＩＭＥ」「生活文化の伝承」授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答80%以上	「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答　奈良ＴＩＭＥ 81.0%（昨年度96.2%）、生活文化の伝承 97.5%（昨年度95.4%）	いずれの科目も地域の伝統、文化に関わる学習である。特に「生活文化の伝承」は「順慶まつり」につながる内容を含むため、「順慶まつり」の開催方法に応じて内容を工夫した。		「生活文化の伝承」については、「順慶まつり」への参加に向け、関係者の協力を得ながらより内容を充実させる。「奈良ＴＩＭＥ」については、フィールドワークの実施等も検討する。
	地域に根ざした生徒会活動の充実	・地域の清掃活動や「順慶まつり」等の活動の活性化を図り、地域の方々との交流を深める。	地域での清掃活動や「順慶まつり」等の活動へ年に３回参加	６月及び11月に通学路の清掃活動、９月に「順慶まつり」に参加した。	「順慶まつり」はコロナ禍前の形で開催され、時代行列、模擬店の運営等に50名を超える生徒が参加した。		閉課程を見据え、「順慶まつり」の協力体制について検討を進める。
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育学習の充実	・人権ＨＲ、講演会、映画会の三本柱で人権学習会を実施する。 ・案内文書にＱＲコードを入れ、参加申込をしやすいよう工夫する。 ・生徒の実態に即した内容の学習会を実施するため、研修を行う。	人権講演会等を複数回実施	11月に人権講演会、人権学習会、人権ＨＲを実施した。	今年度の人権ＨＲは「エゴグラム」を使った自己理解をテーマに展開するなど、生徒の実態にあわせた講演会、学習会の実施に努めた。	いじめアンケートだけでなく、生徒にもストレスチェックを実施することも有効ではないか。生徒が「先生が自分の今の状態をわかってくれている」と思い、学校が生徒にとって安心できる場となるよう、引き続き生徒の実態把握に努めていただきたい。	人権学習の機会が限られている本校の実態を踏まえ、多様な生徒に即した内容で、より効果的に実施できるよう、教材の発掘、開発に努めたい。
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	・面談やアンケート等を通して、生徒の実態把握に努める。	いじめアンケートを複数回実施	いじめアンケートを３回実施した。	アンケートの結果、いじめを把握していない。登校の機会が少ないことから、生徒の実態把握の貴重な機会ととらえている。		アンケートだけでなく、日頃の声かけ、スクーリングでの観察等、より一層生徒の実態把握に努める。
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の有効活用	・保護者、ＳＣ、ＳＳＷ等との連携を強化し、教員間で情報を共有しながら、適切な指導方法を模索する。	学期ごとに対象となる生徒の状況を全教員で確認	６月にＳＳＷを交えた生徒理解研修を実施、その他、職員会議ごとに生徒の情報共有の時間を確保している。	生徒・保護者に対し、必要となる支援も多様で、ＳＣ、ＳＳＷの存在は教員にとって非常に大きい。		ＳＣ、ＳＳＷ及び特別支援教育支援員等との定期的な情報交換会の複数回の開催について検討する。

３　評価結果の分析、今後の改善方策等

※少ない教員で多くの生徒を指導している本校通信制の体制を維持するためには、教員等のチーム力と地域をはじめとする学校関係者の協力が重要となる。今後も、「連携」、「協働」を進め、多様な生徒に対し、個に応じた指導を行っていきたい。
※「本校に入学してよかった」と感じている生徒の割合　94.1%（生徒アンケート、令和６年３月実施）（昨年度　95.9%）